

研究内容の説明文

| | |
|---------------------------|--|
| 献血者説明用課題名※ (括弧内は申請課題名) | コロナ禍において献血協力を推進するための研究 (コロナ禍における献血者の特徴の解析—献血推進活動、特に献血協力者への新たなアプローチ戦略の考案を目指した研究) |
| 研究期間（西暦） | 2021年4月～2023年3月 |
| 研究機関名 | 関東甲信越ブロック血液センター |
| 研究責任者職氏名 | 副所長 津野寛和 |

※理解しやすく、平易な文言を使用した課題名

研究の説明

1 研究の目的・意義・予測される研究の成果等

2020年に勃発したコロナ禍において、テレワークや在宅・サテライト勤務が普及したことにより、都市の企業オフィスや学校から人の姿がなくなり、これまで献血に協力いただいていた方々の協力が得られ難い状況となりました。これまで、献血者の9割以上は頻回に献血にご協力いただいている複数回献血者ですが、コロナ禍において状況が変化している可能性があります。そこで本研究では、2020年4月～2021年3月までのコロナ禍において献血に協力いただいた献血者様のデータ（職業、地域、献血形式、年代、献血場所、検査値（ヘモグロビン値など）等）を解析し、コロナ禍以前（2018年4月～2019年3月）と比較し、コロナ禍で献血に協力いただいている献血者様の特徴を明らかにし、非常時において協力いただける献血者の献血場所へのアクセスなど、利便性を高めることを目的としています。また、10代の学生期に初めて献血を経験された献血者が複数回献血として長年協力いただることが分かっていますが、コロナ禍において休校やオンライン授業が盛んになったことで学生さんが献血を体験する機会が大幅に減少し、今後への影響が懸念されています。そこで、コロナ禍において初めて（または久しぶり）に献血した献血者のうち、その後1年内に再度献血にご協力いただいた献血者の特徴を解析し、1年内に再度献血にご協力いただけなかった献血者の情報と比較し、またコロナ禍前の状況とも比較して、今後の献血協力の啓発に活かしていきたいと考えています。

2 使用する献血血液等の種類・情報の項目

献血血液の種類：なし

献血血液の情報：献血者ID、初回献血日、献血種別、献血場所コード（固定、バス、オープン）、域区分（①職域（会社員、公務員）、②地域（地域団体等主催の献血、例：ライオンズクラブ）、③街頭（日赤主催で他の団体が関与していないもの）、④学域（高校、大学、専門学校）、⑨その他）、ドナ一年齢、性、ABO型、Rh型、ヘモグロビン値、ヘマトクリット値、身長、体重、職業、居住都道府県、2回目の献血日、献血種別、域区分（上記同様）、職業、居住都道府県、採血副作用

3 献血血液等を使用する共同研究機関及びその研究責任者氏名

研究機関：大東文化大学スポーツ・健康科学部

研究責任者（職・氏名）：教授 杉森裕樹（統計解析上の指導）

4 研究方法《献血血液等の具体的な使用目的・使用方法含む》

献血血液等のヒト遺伝子解析：行いません。 行います。

《研究方法》

日本赤十字社血液事業が保有する献血者様情報から必要なデータを抽出し、個人を特定できない集団として統計解析を実施します。特にコロナ禍（2020年4月～2021年3月）の期間中に初めて（または久しぶり）に献血した献血者様のうち、その後1年以内（2022年3月まで）に再度献血にご協力いただいた方とそうでなかつた方のデータを比較することにより、複数回献血に協力していただける献血者様の特徴を明らかにします。また、コロナ禍以前（2019年4月～2020年3月）の期間のデータと比較することにより、コロナ禍で変化した献血者様の特徴を明らかにします。採血副作用などにより採血ができなかつた献血者様は検討から除外します。

5 献血血液等の使用への拒否について

献血者情報のデータの使用を拒否される場合、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

6 上記5を受け付ける方法

下記の問い合わせ先にご連絡ください。

本研究に関する問い合わせ先

| | |
|------|----------------------------|
| 所属 | 日本赤十字社関東甲信越ブロック血液センター |
| 担当者 | 津野寛和（研究責任者） |
| 電話 | 03-5534-7666 |
| Mail | h-tsuno@ktks.bbc.jrc.or.jp |